

## 気候情報

### 2014年2月の日本の天候

- 太平洋側では大雪に2度見舞われ、関東甲信地方を中心に記録的な大雪となった
- 北日本から西日本にかけて月平均気温は平年並だが、気温の低い日が多かった
- 日本海側では、降雪量は少なかった

#### 2月の天気概況

月のはじめと終わりに暖かい空気に覆われて気温がかなり高くなったが、上旬半ばから下旬はじめにかけては、大陸の高気圧が下層の寒気を伴って日本海に張り出したため、気温の低い日が多かった。このため、月平均気温は北日本から西日本にかけて平年並となり、沖縄・奄美では高かった。北日本では冬型の気圧配置となる日が多く、日本海側では曇りや雪の日が多かったが、上空に強い寒気が流れ込むことはほとんどなかったことから、日本海側の降雪量は少なかった。一方、太平洋側では、低気圧が日本の南岸を通過し、7日から8日にかけてと14日から16日にかけては広い範囲で大雪となり、関東甲信地方を中心に最深積雪の記録を更新したところがあった。東日本太平洋側では、降雪の深さの月合計が平年の601%となり、2月としては統計を開始した1961年以降最も多い値を更新した。

**上旬：**1月末に移動性高気圧が通過した後、3日にかけて日本付近には南から暖気が流れ込み気温がかなり高くなった。4日に寒冷前線が北日本を通過した後、6日にかけては冬型の気圧配置が強まり、寒気が日本の南まで南下した。その後も下層に寒気を伴った高気圧が日本海に張り出す一方で、7日から8日にかけては低気圧が日本の南岸を発達しながら通過し、東・西日本太平洋側でも雪や雨となり、関東甲信地方では記録的な大雪となったところがあった。

**中旬：**大陸の高気圧が下層に寒気を伴って日本海に張り出す状況が続いた。一方、低気圧が周期的に日本の南を通過し、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に雪や雨となった。中でも、14日から16日にかけては低気圧が発達しながら日本の南岸をゆっくりと北東に進んだため、太平洋側の各地で大雪や大雨となり、特に関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を大幅に上回る記録的な大雪となった。東日本太平洋側では、降水量が平年の333%となって統計を開始した1961年以降最も多い値を更新した。この発達した低気圧は千島列島付近に16日から19日にかけて停滞したため、北日本では強い冬型の気圧配置となり、所々で暴風雪に見舞われた。

**下旬：**21日から23日にかけては、北日本を中心に弱い冬型の気圧配置が続いた。北・東日本日本海側では曇りや雪または雨となり、その他の地方は概ね晴れたが、全国的に気温の低い状態が続いた。24日から26日

にかけては移動性高気圧に覆われて全国的に晴れて、気温も平年を上回った。北日本太平洋側では、降水量が平年の7%となって統計を開始した1961年以降最も少ない値を更新した。

#### 2月の気候統計

**月平均気温：**沖縄・奄美で高かった。北日本から西日本にかけては平年並だった。

**月降水量：**東日本太平洋側ではかなり多く、北日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美で多かった。一方、東日本日本海側ではかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。

**月間日照時間：**東・西日本で少なかった。一方、北日本太平洋側、沖縄・奄美では多かった。北日本日本海側は平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

#### 2月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量の多い方から (mm)  
前橋 158.0 熊谷 188.5 秩父 171.5
- ・月降水量の少ない方から (mm)  
福井 63.5
- ・降雪の深さの月合計の多い方から (cm)  
前橋 106 熊谷 106 甲府 157 など16地点
- ・月最深積雪の大きい方から (cm)  
前橋 73 熊谷 62 甲府 114 など11地点

#### 2014年2月の平年差（比）図

